

学びや

タイムスリップ

4時ごろまで授業時間が定められていました。近代の小学校では、児童は決められた時間通りに席について一斉に授業集を受けるようになります。

ては府内報を始めたのです。みんなそろって勉強に合わせた規律正しい団行動というものを学んだのである。近代の学校は、時

ほかに明治時代には、校の時間も知させていた。た。確かに地域に知らせていま  
た。京都で初めての自動電気時報が採用されました。屋上に設置された自動の時報が採用されました。業生からの寄贈により、ベルが学区内に響き渡り、児童の起床時間や登校の時間も知らせていました。

京都に小学校が初めてできた1869年(明治2年)に、府から布達された小学校規則では、「毎日午後六時ヨリ夕七時迄諸学修行之事」とあり、現在の午前6時から午後

では当たり前になつていい。そこで必要になるのですが、江戸時代の寺子屋や手習塾では、子どもが自分の生活や習熟度にあわせて学ぶスタイルが一般的で、それぞれが空いた時間に来て手習いをますが、江戸時代の寺子屋や手習塾では、子どもが、時間を知らせる道具です。学校で使われた、時間を使らせるものとして、ます挙げられるのは報時鼓(写真①)です。

**振鉈・西洋式ベル（写真）** そうです。これにより、  
② や木板も使われてい それまで忙しく時間を費  
ました。授業の始まりと にしていた管理用務員に  
終わりには、今で言う音 もゆとりができました。  
理用務員がペルをなら 戦後、1950年代か  
し、授業の区切りなどは ら60年代にかけて、シリ  
木の板を木づちでたたい リリとなるべルのチャイム

集団行動規則正しく



写真②、振つて鳴らした  
「振鈴」(宝蔵)



その後、振鈴は電鉄に替わっていきます。1923（大正12）年には、下京区の開智小（現在は学校歴史博物館）に、卒業生たるかたちで大きな変遷をたどってきましたが、そのかたちは、たゞ一校の開拓した学校における時報、た。みんなで一緒に活動することを重んじる学校において、た。

ものでした。

(京都市学校歴史博物館  
学芸員 森光彦)

写真① たたいて時間を知らせた報時鼓(元田彰小藏)

博物館(下京区)で常設展示しています。